

第32回HP担当者会議_再生ビジョン

～「役員が用意する会」から「全員で育てる会」へ～

いきいき同窓会の原点に立ち返り、持続可能で活気ある組織へと生まれ変わるために

1. 原点と理念: 私たちが大切にしたいこと

同窓会の本来あるべき姿は、役員だけで運営する組織ではない。大切な価値は、すべての会員が以下のように感じられること。

- 「ここは自分の居場所だ」
- 「参加するのが楽しい」

「一人ひとりが主役」であるこそが私たちの原点。

2. 現状の課題: 理想と現実のズレ

残念ながら現在は、理想と現実にはズレが生じ、活気が弱まりつつある。

負のスパイラル

情報共有の不足が、会員の無関心を生み、組織の硬直化を招いている。

1. 情報の分断
 - 会議が形式的になり、一部の役員だけで進行している。
 - 「何を話し、なぜ決まったのか」が会員に届いていない。
2. 会員の「お客様」化
 - 情報が届かないため「自分には関係ない」と感じてしまう。
 - 自分から関わるのではなく「何かしてもらうのを待つ立場」になっている。
3. 組織の空洞化
 - 関心が薄れ、参加者が減少する。
 - その結果、ますます一部の人のみで決めざるを得なくなる。

3. 改革の基本方針: 「気軽で、楽しい」へ

この悪循環を断ち切るために…

「頑張らなければ参加できない会」から、
「自然と関わりたくなる会」への転換

参加のハードルをとことん下げ、楽しさを増やすことを最優先する。

4. 具体的なアクションプラン

①「つながる場所」としてのHP活用(情報の透明化)

ホームページを単なる連絡掲示板から、会員全員が会の動きを感じられる中心的な場へ

- プロセスの共有(会議の見える化)
 - 決定事項だけでなく「なぜそうなったのか」のプロセスを共有する。
 - 文章だけでなく要約動画などを活用し、忙しい人も短時間で会議に参加している感覚を持てるようにする。
- 双方向のコミュニケーション
 - アンケートや意見箱を設置し、「自分の意見が尊重されている」と実感できる仕組みを作る。

②「一緒に創る」イベントへの転換

イベントを「見るだけの行事」から「参加体験型」へシフトします。

- 多彩な企画
 - 作品展示、体験型ワークショップ、バザーなど、ユーモアある企画を実施する。
- 誰でも主役に
 - 立場や役職を超え、誰もが自分らしく、気軽に楽しめる場を目指す。
 - 「みんなで作った」という達成感が、会への愛着を深める。

5. 結論:これからの姿

これまで	これから
役員が用意する同窓会	会員全員で育てる同窓会
一部による決定	プロセスの共有と参加
形式的な会議	双方向の対話
義務感・受動的(お客様)	楽しさ・能動的(主役)

情報を開き、声を集め、楽しさを共有する。この積み重ねが、いきいき同窓会を輝かせる。